

筑前一之宮

住吉神社

社殿（国指定重要文化財）

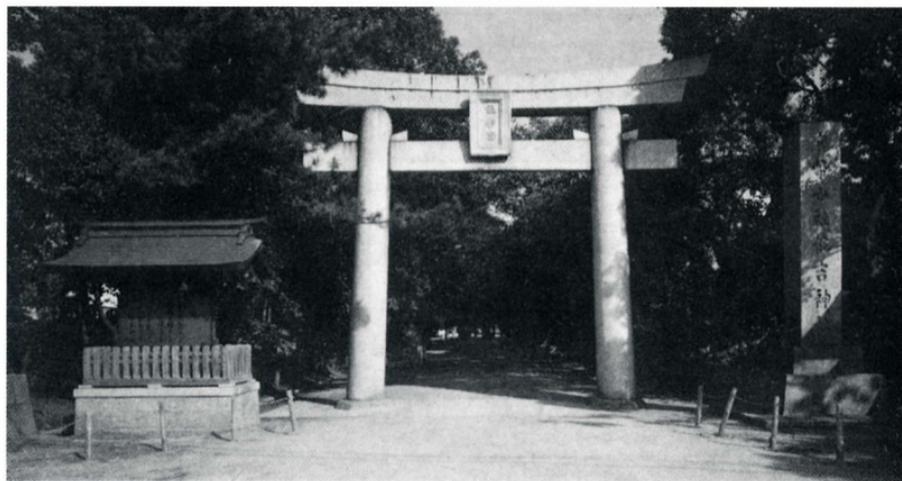


〒812-0018 福岡市博多区住吉3丁目1-51

電話(代) (092)291-2670・FAX291-2669

<http://chikuzen-sumiyosi.or.jp/>

《博多駅よりバス3分(住吉下車)・博多駅より徒歩10分》



表参道

▶ 御祭神

当住吉神社は そこつつのをのみこと 底筒男神 なかつつのをのみこと 中筒男神 うわつつのをのみこと 表筒男神 の住吉三神を祭神とし、相殿に あまてらすおおみかみ 天照皇大神 じんぐうこうごう 神功皇后 を配祀します。これを住吉五所大神とも申します。

▶ 御由緒

住吉三神は遠い神代の昔に、いざなぎのおおかみ 伊弉諾大神が筑紫の日向の橘の小戸の阿波伎原でミソギハラへ(禊祓)をされた時に、志賀海神社の御祭神・ワタツミ三神と警固神社の御祭神・直毘の神と共に御出現になりました。したがって当社の御鎮座は遠い遠い神代のもので、年代を定めることは出来ませんが、全国的にも九州でも最も古いお宮様の一つです。

博多古図



住吉大神をお祀りする神社が全国に二千二百二十九社ありますが、当社は住吉の最初の神社で、古書にも当社のことを「住吉本社」「日本第一住吉宮」などと記されております。

また、平安時代に全国各地に「一の宮」が定められましたが、当社は筑前の一の宮として朝野の厚い崇敬を受けました。

約千八百年前、神功皇后の三韓への御渡航に際し、住吉大神の荒魂あらみたまは水軍をお導きになり、和魂にぎみたまは胎中天皇と申し上げた応神天皇の玉体をお守りになり、刃やいばを用いずして御帰還遊ばすことが出来ました。よって皇后は住吉三神の御神徳を厚く敬仰感謝され、新羅の都に国の鎮護として住吉大神をお祀りになり、また摂津(大阪)、長門(山口)、壱岐に住吉神社を御創建になりました。

住吉大神のご神徳は、その御出現の由来に拝しますように、「ミソギハラへ」の御霊徳によってわれわれに心身の清浄を保たしめ給い、そしてそれにより生ずる「開運と光明」をお恵みになるのであります。更に、応神天皇の御代から国運大いに開けたこともあり、住吉大神は文教、殖産、興業、開運、安産、予言の神として信仰されております。またツツノオ(筒男)のツツには星の意味があると言われ、筒男三神は航海安全、船舶守護にその神威をあらわされ、海運・漁業者の崇敬が極めて厚く「住吉丸」と名づけた船の多いのもそのためであります。

このように御神徳が廣大でありますので、当社への朝廷の御崇敬は特に篤く、神功皇后の勅祭(十月十三日の例祭の起源)に始まり、聖武、清和、陽成、後一条、鳥羽、後花園の各天皇が奉幣あらせられ大正天皇は三度昭和天皇は五度の奉幣がありました。



流鏝馬

また当社は諸武将の崇敬も厚く、楠正成、源頼朝、足利尊氏は祈願文、寄進状を寄せ、一時は

自国・他国を合わせ神領三千余町(ha)歩、神人三百余人に及んだと伝えられます。江戸時代に入っては、黒田藩祖長政以来歴代藩主の崇敬は殊に篤いものであります。

## ▶ 所在

現在、当社は背振山系に水源を発し、福岡平野を潤おして博多湾に注ぐ那珂川の下流、福岡市街地の中心にあって緑の木立にかこまれた参道や境内は市民の安らぎの場所となっております。

中世の状態を描いた当社所蔵の博多古図では、海は深く湾入りしその入江に突き出た岬に当社があります。古来より大陸交通の要衝であった灘の津の中心に、この地の総氏神で航海、船舶の守護神であらせられる筒男三神が鎮座されていることは、まことにふさわしいことと申せましょう。

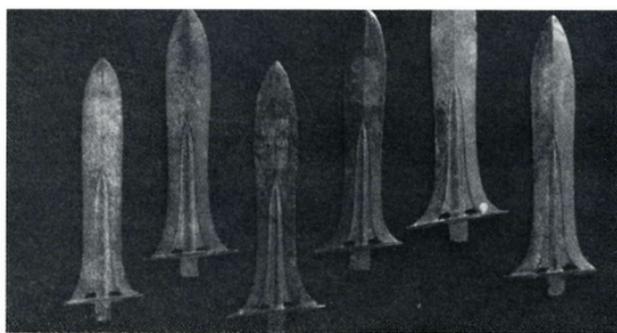


拝 殿

## ▶ 祭 典

●例 祭〈十月十三日〉 神功皇后が三韓より御帰還されて、住吉大神の御神徳に報賽されようとその御神慮をうかがわれたところ、「相撲」と「流鏑馬<sup>やぶさめ</sup>」との仰せがありましたので、皇后は軍士に力競べをさせられました。このことが起源となって、例祭のことを「相撲会祭」とも申し、昔からこの地方の最も権威ある宮相撲となり、江戸期から現代に至るまで特設の棧敷が設けられ大変盛大な催しでありました。新横綱は戦前までは横綱の免許を受けに熊本の吉田司家に行った帰路、必ず当社に参拝をして居りました。また例祭で御祭神は博多の浮殿へ御巡幸されましたが、その際、朝御饌<sup>あそけ</sup>を奉った所を「御供所」、流鏑馬を行った所を「馬場」と言って、町名として残っています。

●追儺祭<sup>ついなさい</sup>〈一月七日〉 皇室、国家の繁栄をお祈りする祭りで、夜間には鬼すべ、うそ替の行事があり、その昔、鬼をしばりつけたという石柱が本殿前にあります。



銅戈・銅矛

## ●御田祭 〈三月七日〉

祈年祭とも申し、五穀の豊穰を祈る祭りで、播種神事と大神楽が行われます。



●潮干祭〈四月三日〉航海の平安、豊漁、船舶の安全をお祈りする祭りです。

●名越祭〈七月三十日～八月一日〉御祭神の御出生と関連の深い昔の「六月大祓」で、茅の輪くぐり、人形流しひとがたの神事があります。また、毎日子供神輿が各町を練り回り賑わいます。

●早穂祭〈九月四日〉初穂を奉り、五穀豊穰を祈念します。

●歩射祭〈十一月七日〉後陽成天皇の奉幣に始まり、国家の鎮護と海内の平穏をお祈りします。社前では礼射が行われます。

神職は横田氏を以って代々宮司とします。佐伯氏の一家で、その一族は源頼朝の身辺にあって源氏の武家政治の樹立について功のあったことが『吾妻鏡』に見えます。

## ▶ 社 殿

元永二年(1119年)当社の遷宮について朝廷で仗座のあったことが『中右記』に見え、この時、社殿の改造があったことがうかがえます。元和九年(1623年)黒田長政公は白銀二千両と材木を寄進して社殿を再建し、三代光之公も社殿を修理されました。

国宝「蒙古襲来絵詞こまば」には朱塗りの当社の鳥居が描かれ、その場所に延享年中には石鳥居が建立されましたが、最近の交通事情から南参道に移されました。

本 殿 間口二間・奥行き四間・住吉造り桧皮葺き  
(国指定重要文化財)

拝 殿 入母屋造り銅板葺き・二十五坪

## ▶ 境内地

総面積 8107 坪。次のようなものがあります。

●神木一夜松 社殿の左手にあり、永享のころ社殿にさしかかった松が造営の邪魔になるので、切ろうとしたところ一夜のうちに真っすぐになりました。このことが天聴に達して後花園天皇は勅松花和歌集十二巻を奉納されました。そのうちの五の巻(恋の巻)が現

現存しています。惜しいことにこの松は昭和初期に枯死しましたが、文明十二年(1480年)連歌師飯尾宗祇は当社に参拝、この松に次の歌を寄せました。

### 『神垣の松にぞたのむ言の葉も

#### すぐなる道に立ちやなほると』

●功德池 南参道にあり。昔は放生会の神事が行われました。

●天竜池 表参道と那珂川の間にある。以前は満潮時、川をさかのぼった海水がこの池に達していましたので、一名汐入池とも呼ばれ伊弉諾大神のミソギハラへの霊池と伝えられます。

●摂社

船玉神社 (猿田彦命) 道の守護神。

志賀神社 (綿津見三神) 海洋の守護神。

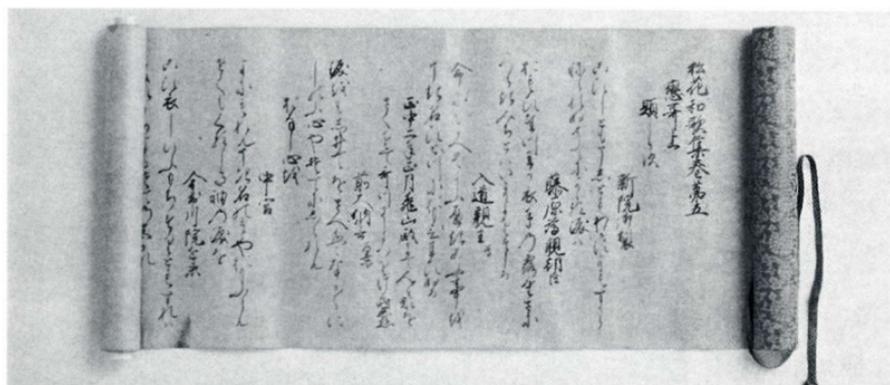
●末社

少彦名神社 (少彦名命) 葉祖神、淡島様、酒造様、神農様などと称し、葉業者、酒造家、医師、病人等の信仰するものが多い。

稲荷神社 (宇賀乃魂) 荒熊様とも称し、商家、生産業者の信仰が厚く、この神に願いをかければ諸願通ぜぬはなしとされる。

恵比須神社 航海、漁業、幸運の神。天満宮(菅原道真) 学問の神。

人丸神社 (柿本人麿) 和歌の神。天津神社 (伊弉諾大神) 天竜池の中にある亀島に祀られてあり、縁結び、開運、除災の神。



勅撰松花和歌集

## ▶ 神 宝

天文二十年(1551年)、応仁の乱により荒廃した本殿の造営を依頼しようと、伝来の宝物を持たせて山口の大内義隆のもとに遣して説かせたところ、義隆は快諾したが陶晴賢の反乱に遭い、義隆は自刃。神官二名も義隆一旦の恩義に感じ出陣して戦死し持参の神宝も散逸しました。

現存する主なものは、社殿(住吉造り=国指定重要文化財)、銅戈六口・銅矛五口(県指定有形文化財)、勅撰松花和歌集一卷、博多古凶、住吉大明神御縁起、古文書類などがあります。